

言いたい ほぐたい

二年前からベトナムでの枯葉剤被害者支援活動に参加しています。

昨年は計十五人の子ども達に、学業の支援にと奨学金を贈呈しました。会の中心メンバーであるジャーナリストの北村元さんのアイデアで、切手を貼った封書を同時に手渡し、奨学生の皆さんには「春と秋に近況を報告していただき」とお願いをしました。

私が贈呈役を仰せつかったクアンガイ省の高校三年生レ・ティ・キム・チュンさんから手紙が届いたので。その手紙からは、日本では想像もできない険しい状況の中で必死に学ぼうとする彼女の強い決意が感じられます。

贈呈式で彼女が見せた強い意志を秘めた、あの凛々しい瞳を私は忘れられません。

ひるがえって日本の状況を調べると、内容や程度に違いはあるものの、同年代の若者達も厳しい状況にさらされていくことに気づきます。

さらに母子家庭の調査などから、世代を超えて貧困が連鎖している実態が明らかとなりました。

グローバル化のもとでは二極化は避けられません。しかしながら、どんな状況下でも自分の未来を切り開くのは、自分自身の努力しかないのです。以下に

ある少女からの手紙

事実一。厚生労働省の発表では二〇〇九年度九月末現在の高校生就職内定率は三七・六%で前年同期を一一・四ポイント下回り、過去最大の下落率。

事実二。年収二百万円未満の家庭での高校生四年制大学進学率は三割に満たない一方、千二百万円以上の家庭では倍以上の六割強に達していること。

引用するチュンさんからの手紙の一部を読むことで、日本の若者達が力強く生き抜くための勇気を少しでも取り戻してくればと、心の底から願うのです。

そして頑張る力も与えて頂きました。学校の友達には、日本人の優しさ、親切さ、人を愛する心について話をしました。そして友達には、あの時ぐださった富士山の写真を自慢して見せました。友達はい、日本の素晴らしさと日本人のことを感心してくれました。

名古 良輔

私の故郷はとっても貧しいです。両親は二人とも軍人でした。兄弟は五人です。女三人男二人です。しかし、お兄さん二人は枯れ葉剤の影響を受けて普通の生活はできません。全てのことは誰かにやってもらわなければなりません。私が中学二年の時、兄が一人亡くなりました。家族は少しの水田を耕作して

います。両親は戦争の時に負傷しています。しかし両親は私を養うのに一生懸命です。生まれつき障害を受けている子ども達を悲しく思っているようです。が、それにもかかわらず負けることなく私達を養って、教育も受けさせてくれています。

両親を悲しませないようにしようと考えています。そして自分自身いつも願っていることは、早く大人になって家族を助けられるようにしたい。そしていつか日本に行きたい、といっています。日本人はとっても親切な人達だと思えます。

最後に皆様のご健康と仕事が順調でありますように、そして今後意義のある活動が続けたいことを心から願っています。

(眼科医、原)